

世代別の切花年間支出額を示す（図 2）。世代別に見てみると全世代で支出額が減少傾向にあり、世代が上がるにつれて支出額が増加する傾向にある。近年の特筆すべき傾向としては 2020 年より 20 代以下から 40 代までの支出が増加していることが挙げられる。前述のとおり 2020 年の新型コロナウイルスの流行により在宅時間が増え、ホームユース需要が高まったことによるものと考えられる。

直近の傾向としては下げ止まりを見せているが、全体的には減少傾向にあることがわかる。2020 年以降に生まれた新たな需要を絶やさず、さらなる需要喚起の取り組みを行うことが今後の花きの消費動向に影響を与えることになると思われる。

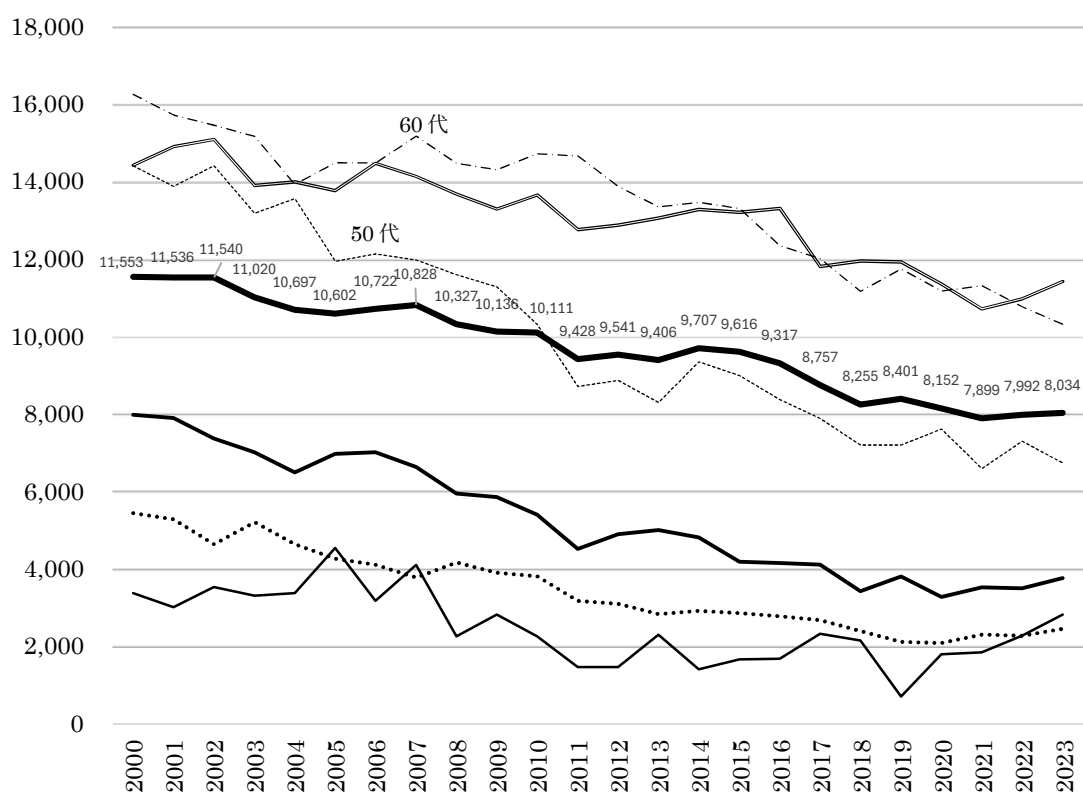


図 2 二人以上世帯の切花の世代別の年間支出額（単位：円）

資料：総務省統計局「家計調査 家計収支編二人以上の世帯」より作成

第2節 生産の状況について

切花の年間作付面積および年間出荷数量の推移を示す(図3)。1990年代は急速に作付面積、出荷数量ともに増加し、作付面積は1999年(19,800 ha)、出荷数量は1996年(5,756百万本)にピークを迎える。その後は、減少傾向にあり2022年では作付面積12,970 ha、出荷数量3,139百万本となっており、それぞれピーク時の65.5%、54.5%にまで減少している。生産量の減少の主な要因には、生産者の高齢化や後継者不足などの労働力事情による廃業や規模縮小、他品目への転作、経費高騰(資材、燃料、人件費等)による経営圧迫、消費需要の減少、異常気象による被害等がある。近年は需要に対して供給不足により単価は上昇傾向にある。

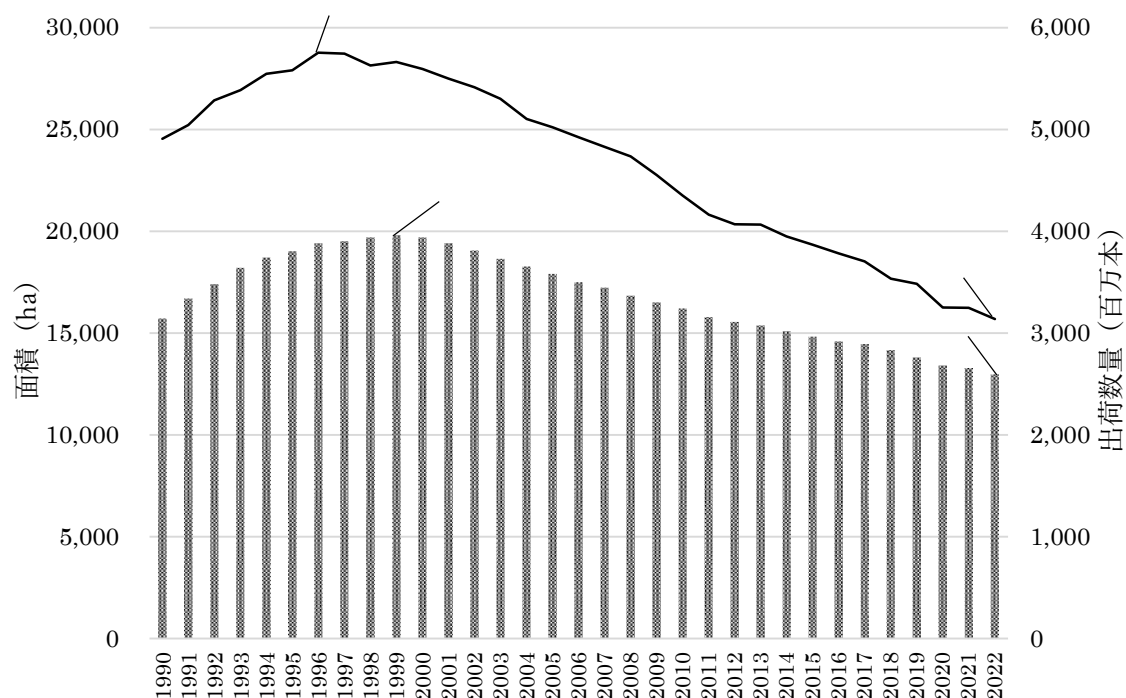


図3 切花の年間作付面積および年間出荷数量

資料：農林水産省「花き生産出荷統計 品目別作付面積及び出荷量累年統計および令和4年産花き生産出荷統計」より作成